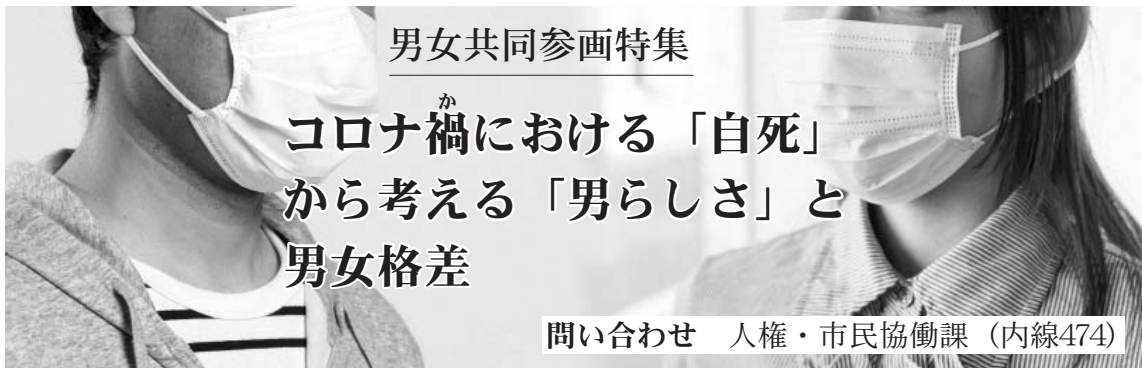


コロナ禍における「自死」から考える「男らしさ」と男女格差

問い合わせ 人権・市民協働課 (内線474)



コロナ禍の中、冬の訪れとともに、連日報道される感染者の増、死亡者増のニュースに心を痛めた人も多いのではないだろうか。

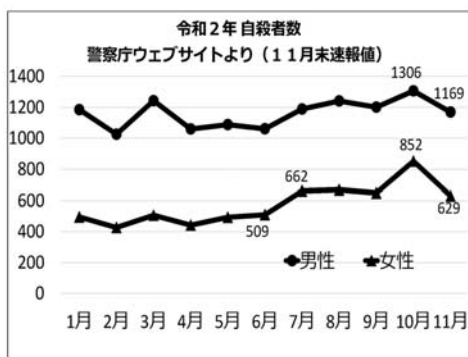
しかし、その陰では、新型コロナウイルスに感染して亡くなる人より、自死で亡くなる人のほうが多いと

いう深刻な問題があります。

自死の原因は必ずしも明確ではありません。自死はその多くが追い込まれた末の死であり、精神保健上の問題だけでなく、さまざまな社会的要因があることが知られており、その多くは防ぐことができる社会的な問題です。

警察庁の発表(速報値)によると、令和2年10月に自死で亡くなった人が、一昨年同月に比べて約4割増加しています。

また、令和2年7月から継続的に増えており、これは今般の新型コロナウイルス感染拡大による影響との見方もあります(左図参照)。



「男らしさ」の呪縛

自死によって命を落とす男性の数は、長年にわたって女性に比べて常時約1.5〜2倍多くなっています。

「自殺対策に関する意識調査」(厚生労働省・平成28年)によると、女性に比べて、男性の方が、誰かに相談することのためにためらいを感じる人が多いという結果が出ており、男性という性別が自死に影響を与えていることがうかがわれます。



「男の子なんだから泣かないの!」と言ってしまった経験はありますか。決まったフレーズのように何気なく使っている言葉かもしれません。この言葉のように、子どものころから男性には「強くあるべき」というプレッシャーが与えられています。

これが男性に「弱音を吐いてはいけない」と、相談をためらわせる要因の一つとなっているのではないのでしょうか。

さらに、現在では新型コロナウイルス感染予防のため、人との接触が減り、より一層相談の機会が減少しています。

もちろん、これだけが理由ではありませんが、これまで社会が男性に期待してきた「男らしさ」が、男性を相談や悩みの告白から遠ざけ、死を選ばせてしまっていると言えるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスは女性の暮らしを直撃

新型コロナウイルスの影響によって、特に女性の自殺者数が大幅に増加しています。

その背景には、日々の暮らしに新型コロナウイルスの影響が長引く中、女性が担っていることが多い家事・育児・介護などの負担増が続いており、DVなどによる被害の深刻化も指摘されています。



また、女性は感染リスクが高い対面サービスを提供する福祉・医療、飲食業などの分野の仕事に従事している割合が高く、景気悪化の影響を受けやすいパートなど不安定な雇用形態であることが考えられます。

このように、女性がコロナ禍で心理的なストレスを抱えていること、性別役割分担意識による「男女格差」という社会構造上の問題がひそんでいることが分かります。

世界的にも、新型コロナウイルスは、社会の弱いところで影響を多く出している傾向がみられます。つまり、日本の弱点のひとつが女性の社会的な基盤の弱さだということが改めて浮き彫りになりました。

誰もが生きづらさを感じない社会に

「男らしさ」「女らしさ」が刷り込まれるのは特定の場面だけではありません。私たちは、家庭、学校、職場、対人関係などあらゆる場面で、気づかないうちに「男らしさ」「女らしさ」に縛られています。

「性の多様性の認識が広がりにつつある時代に、今さら男女で考える必要はないのではないか」、「そんなことを言っても状況は変わらない」という意見もあるかもしれませんが、かえって現状ある男女間の差別や格差を見えにくくしてしまっている側面もあります。

この問題から距離を置くのではなく、男女の平均賃金の格差など女性に不利な日本の社会構造などの問題を多角的に捉えて、社会にある男女間の格差に目を向けてみることで、自分自身が「男性・女性らしさ」にとらわれているのではないかと考えてみることで、私たちが一人一人が、一度立ち止まって社会や自分自身を見つめ返すことで、誰もが生きやすい社会に変わっていくのではないのでしょうか。

男女共同参画フォーラム

「マンガからジェンダーについて考えてみませんか？」

子どもから大人まで楽しめるマンガの表現を通して、私たちが知らない内に刷り込まれている、イメージや価値観について考えてみましょう。

とき 3月6日(土)、午後1時10分～3時
ところ すばるホール2階小ホール
定員 70人 参加費 無料
講師 吉村 和真さん(京都精華大学副学長・マンガ学部教授)
申し込み 2月8日(月)～、市ウェブサイト(人権・市

第4回LGBTコミュニティスペース～学校現場でのLGBTの生徒・児童への配慮や対応について～

同コミュニティスペースは、LGBTをはじめとする性的マイノリティ当事者やその家族、支援者が気軽に集まれる場所です。

一人で悩まず、同じ悩みや思いを持った仲間と話してみませんか。

とき 2月27日(土)、午後2時～4時
ところ 市役所2階201会議室
対象者 性的マイノリティ当事者やその家族、性的マイノリティかもと思う人、性的マイノリティについて理解を深めたい人

参加費 無料
講師 井上 鈴佳さん(元中学校・高校の保健室の先生)

申し込み 2月25日(木)までに、氏名(通称名、仮名可)、セクシュアリティ(任意)、「2月のコミュニティに参加」を明記し、メールで人権・市民協働課〔(内線471)・Eメールjinken@city.tondabayashi.lg.jp〕へ(電話申し込み可)

人権啓発講座「いのちの教育～性教育が子どもの未来を救う～」

とき 2月17日(水)、午後3時～5時
ところ 人権文化センター

対象者 市内在住・在勤・在学の人
定員 70人

参加費 無料
申し込み 2月15日(月)までに(一社)富田林市人権協議会〔☎(24)3700・FAX(25)5952・Eメールwakaichi@luck.ocn.ne.jp〕へ(申し込み先着順、電話、ファクス、メール申し込み可)



民協働課のページ)の申し込みフォーム(下のQRコードからもアクセスできます)または電話で人権・市民協働課(内線474)へ(申し込み先着順、定員に満たない場合は、当日参加も可)
※手話通訳・要約筆記あり。
※当日は男女共同参画センターウィズ登録団体のパネル展示も開催。
※託児あり(定員5人、おむね2歳～就学前の幼児対象、申し込み先着順)。

「どうして私だけ…」に頼んでも無理「自分では家事・育児を頑張っているつもりなのに…」とイライラしたり、諦めの気持ちになつたりしたことはありませんか。

男女共同参画関連WEB講座

「家事・育児をシェアするちょっとした工夫って？」

家事・育児シェアには、夫婦間のコミュニケーションが大切です。夫婦で支え合える生活をするためのちょっとした工夫、対話から始める家事の共有方法をお伝えします。
※動画配信ツールYouTubeを利用したWEB講座(約90分)です。
視聴期間 2月19日(金)～3月7日(日)
受講料 無料
講師 和田 のりあきさん(マジックパパ代表)
申し込み 3月3日(水)までに、メールで、講座名、住所、氏名、電話番号を人権・市民協働課(内線474)・Eメールjinken@city.tondabayashi.lg.jp)へ(電話申し込み可)
※後日、同課より動画視聴用のURLを送付します。
※質疑応答はできません。



※Eメールの場合は、同課からの確認メールを返信しますので、メールの受信ができるよう設定しておいてください。